

経営比較分析表（令和6年度決算）

和歌山県 みなべ町

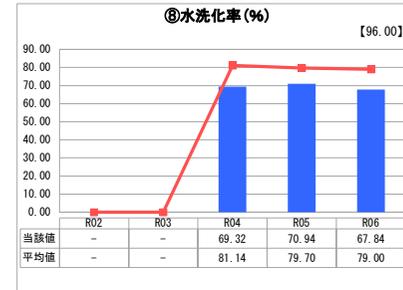
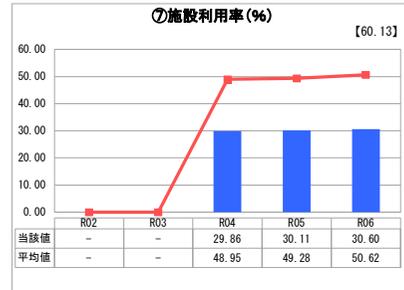
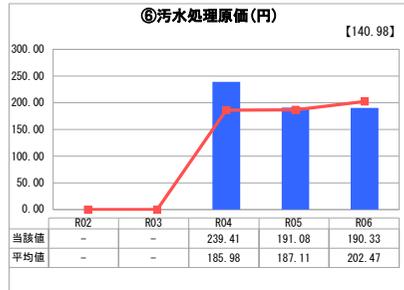
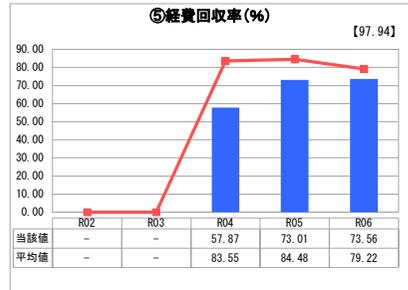
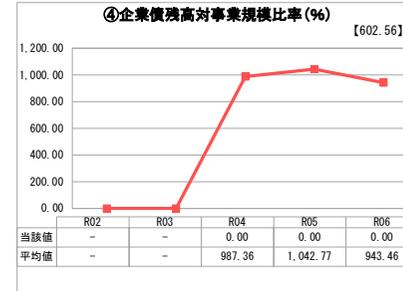
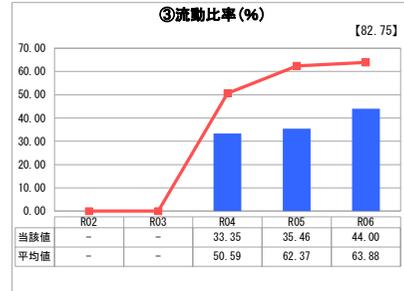
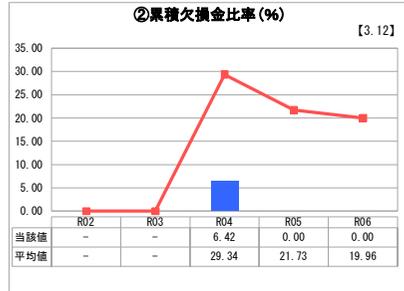
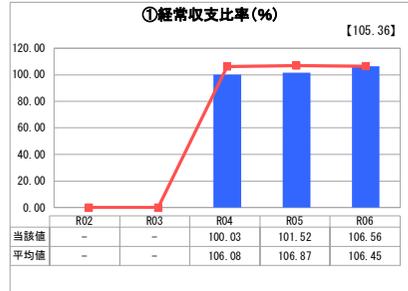
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	56.24	75.96	100.00	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,516	120.28	95.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,682	2.88	3,014.58

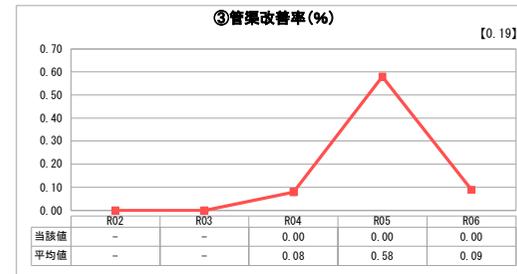
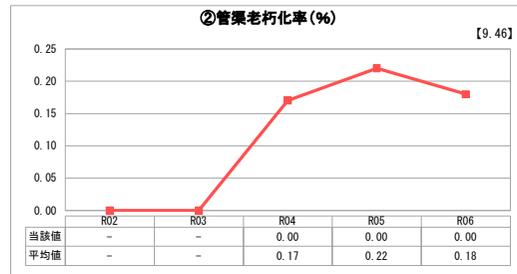
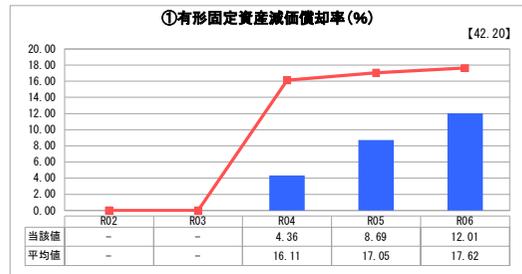
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収支比率については100%を超え黒字を確保し、類似団体平均を若干上回った。流動比率は昨年度に比べ高くなったものの、依然として平均を大きく下回っており、多額の借入金や他会計繰入金に依存している状態である。企業債残高対事業規模比率については企業債残高を一般会計繰入金で負担しているため0となっている。経費回収率についても、昨年度に比べ多少平均に近づいたが、本来100%であるべきところを下回っており、これは多額の企業債償還額が原因である。汚水処理原価は平均を下回ったものの、昨年度より若干高くなっている。施設利用率は昨年度と同様に非常に低く、過大投資となっている現状が伺える。水洗化率については多少の減少が見られたが、これはシステム改修に伴い水洗化人口の見直しを行ったことが影響していると思われる。

2. 老朽化の状況について

固定資産については修繕や更新を行っており、現在は健全な状況にあると考えられるが、今後は耐用年数を経過した施設の更新が必要となる見込であり、計画的な管理を行わなければならない。

全体総括

資産については健全な状況にあるが、施設や管路への過大投資により、企業債残高が使用料収入に対し多額となっているため、会計的には繰入金に頼る他なく厳しい状況である。今後は水洗化率向上に努めるほか、令和11年度の使用料改定を目指し、令和8年度から取り組んでいく予定である。企業債残高は減少していく見込だが、人口減少などによる影響もあるため、施設更新の妥当性なども含め、経営改善に向け、長期的な視点を持ち検討していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。